

所議校 浅間大社の桜育成に 「マスマス元肥」を寄贈

富士宮高校会議所は、このほど、富士山本宮浅間大社の桜樹保護育成に役立てるため、独自開発した堆肥「マスマス元肥」1500kgを寄贈した。

浅間大社は桜を御神木とし、敬神女性団体の木花会とともに保護育成に取り組んでいるが、近年は桜樹の高齢化が顕著になり、枯れ枝や倒木などの危険性が増している。また、国の史跡で世界遺産に登録

されている浅間大社境内では、桜の植え替え、危険木の伐採などには、全て国、県、市の許可が必要になり、対策が思うように進んでいないという。

今春、1本の桜が枯れているのを目にして、そうした状況を知った高校会議所メンバーが「マスマス元肥を活用し、未長く浅間大社の桜の生育をサポートできないか」と考え、今回の寄贈につながった。



代表者などが出席しての贈呈式(提供写真)

贈呈式が浅間大社で行われ、高校会議所会頭の高野唯花さん(富士宮東高3年)と望月の松原通雄代表取締役

優希さん(同)、マスマス元肥の共同開発企業・富士バイオテック

浅間大社の小西英磨宮司、木花会の猪頭美枝子会長などが出席した。両会頭は「1000年後も素敵な桜を咲かせるようにしたい。マスマス元肥はリン酸、カリウム、アミノ酸が多く含まれ、植物の生育とともに、土の中の微生物の働きも良くする」と語った。

創立98年目となる木花会では「最重要事業でもある桜樹の保護育成を今まで以上に進める。令和10年に迎える創立100周年に向け、高校会議所と連携を密にしていきたい」としている。